

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当金受領株主確定日	毎年3月31日
中間配当金受領株主確定日	毎年9月30日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 TEL:0120-094-777(通話料無料)
公告の方法	当社は以下のURLで電子公告を行います。 http://www.shizuki.co.jp/ ※事故その他のやむをえない事由により、電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第二部
単元株式数	100株 ※平成29年1月1日付で1,000株から100株に変更しました。

ご注意

- 株主さまの住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店においてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

『指月(シヅキ)』社名の由来

『指月』の社名は、創業者山本重雄が長州(現在の山口県)の出身であること、また幕末長州藩の一代家老として藩政改革で功を成した村田清風が先祖にあたることから、毛利家歴代の居城である萩城(指月城)から名をお借りしたのが命名の由来です。



株式会社 指月電機製作所

本社 〒662-0867 兵庫県西宮市大社町10番45号
TEL:0798-74-5821 FAX:0798-73-0807
URL www.shizuki.co.jp



株主通信

第90期 報告書

平成29年4月1日～平成30年3月31日

メッセージ

「成長事業」と「強化事業」。
2つの戦略を重ね、
厚みのある収益構造を。

特集:シヅキのツヅキ

海外市場向け商品



証券コード 6994 / 東証二部

株式会社 指月電機製作所



AIM2018 事業領域の11ドメイン



今回の主なトピックス

- コンデンサ研究開発棟を移転新設**
兵庫県西宮市に「コンデンサ研究開発棟」を新設します。開発力・生産力ともに増強をはかり、シツキの次なる成長の牽引力としてまいります。
- 秋田指月 創立50周年**
秋田指月は2018年4月に創立50周年を迎えました。自動車インバータやIH家電に向けた高性能なコンデンサを開発・製造。世界に向けたものづくりに取り組んでいます。
→ 詳しくはP7-P8をご覧ください



電気をマネジメントするさまざまな商品を開発・生産して、お客様に提供し、社会に貢献する。

社員一人ひとりが「品質・コスト・納期」という経済的視点や、「再利用・負荷の減少・エネルギーの再生」という環境的視点を持ち、業務に取り組む。

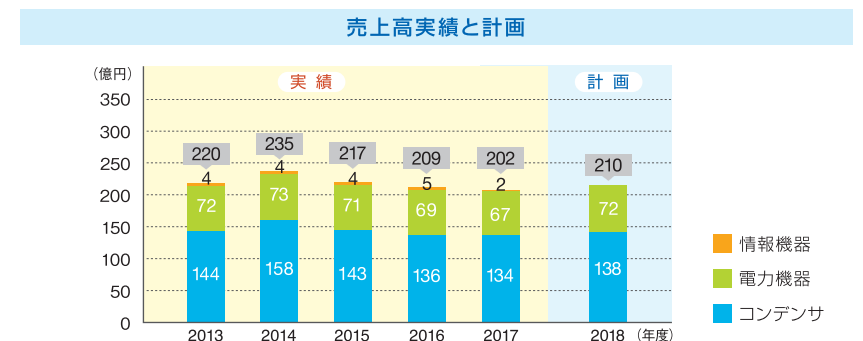
「成長事業」と「強化事業」。 2つの戦略を重ね、厚みある収益構造を。

わが国の経済をふり返れば、景気は数年にわたって緩やかな回復基調がつづき、所得や雇用の改善、設備投資の持ち直しの動きも見られるようになりました。一方、海外に目を向ければ、米国の政策動向、米中間の経済摩擦の高まりなど、懸念材料が浮き彫りとなり、先行き不透明な状況が続いています。

私たちシツキは、過去最高の売上高・営業利益を達成した平成27年3月期の後、中国向け鉄道関連のコンデンサや新エネルギー関連の減少などを受けて、決して順風満帆とは言えない道を歩んできました。平成30年3月期におきましても、受注・売上の確保、収益改善活動に努めてまいりましたが、連結売上高は201億6千8百万円（前年度比3.7%減少）となりました。損益につきましては、売上規模の減少に加え、販売費及び一般管理費の増加などにより、営業利益12億1千9百万円（前年度比16.3%減）、経常利益15億4百万円（前年度比14.8%減）となりました。

しかし、私たちはこの3年間、ただ逆風に耐えてきたわけではなく、次なる成長につなげるための種を蒔いてきました。今、その芽がようやく地表に姿を現そうとしています。今年度は、シツキの「成長事業」と「強化事業」を明確に打ち出し、成長市場への経営リソースの集中と、足もとの基幹事業の強化をはかり、大きな可能性の実を育てまいります。

代表執行役社長 伊藤 薫

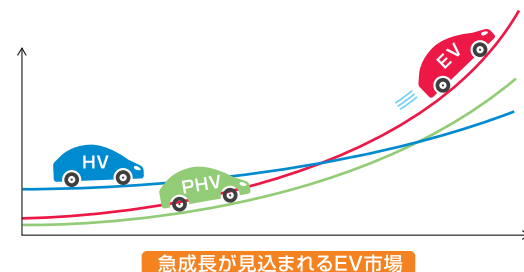


成長をつくる、電気自動車。 基盤を固める、電力機器／産業機器。

黎明期を抜け、 EV市場は、いよいよ成長期へ。

私たちは今年度、自動車機器向けのコンデンサを「成長事業」、電力機器／産業機器を「強化事業」と位置づけ、次なる成長局面へ向けて、より厚みのある収益構造を築いていきます。

「成長事業」の柱は、これから急速な市場拡大が見込まれる、電気自動車（EV）です。この数年間、EV市場は、大きな期待と注目を集めながらも黎明期にあったと言えます。しかし、日本発の急速充電規格「CHAdeMO（チャデモ）」の充電器の設置が71カ国1万8000基を超える（2018年5月時点）など、インフラの整備も急速に進み、いよいよ本格的な普及拡大が見込まれています。



2025年、EVの世界累計台数は、 4000～7000万台に。

CO₂排出規制の動きが世界的に強まる中、イギリスやフランスでは「2040年までにガソリン車とディーゼル車の販売を停止し、EVのシェアを向上させる」という政策を発表しています。2017年6月には、クリーンエネルギー大臣会合によりEV30@30キャンペーンが立ち上げられ、「2030年までに、すべての自動車を対象として新車販売シェアに占めるEVの割合を、参加国全体で30%以上とすることを目指す」という国際的な目標が掲げられました。日本や中国を含む10カ国が参加しています。

国際エネルギー機関（IEA）が発行する「世界の電気自動車の見通し（2017）」レポートによると、EVの世界累計台数は2016年に200万台を超えており、2025年には累計4000～7000万台に達すると予測されています。

生産力も、開発力も高め、 需要の本格化へ向けて、万全の体制を。

シヅキでは、すでにEVに向けた商品の量産を始めており、今後のさらなる販売拡大に向けて準備を進めています。村田製作所と提携して進めてきた「車載用高耐熱フィルムコンデンサ」の共同開発・量産化。万全の増産体制に向け、岡山指月の生産能力を6倍に高める第3工場の完成。2008年からハイブリッド車向けのコンデンサを供給してきた秋田指月でも、2014年から第4工場が稼働しています。

そして今、私たちは新たに「コンデンサ研究開発棟」の建設を進めています（5ページ参照）。岡山指月の現R&Dセンターを移転新設し、開発者たちがさらに研究開発に専念できる環境をつくることで、新素材の研究や新製品開発を加速させ、EV市場での競争力を高めていきます。

さらに、国内需要の増加に応えるだけでなく、アメリカやヨーロッパへ向けた販路拡大も進めています。このように、電気自動車用コンデンサという「成長事業」に経営資源を集中させることで、シヅキの次なる成長ステージの牽引力としていく所存です。

ASEANのインフラ整備を支え、 経営基盤を強化。

その一方で、足もとの事業基盤を固めるために定めたのが「強化事業」です。長くシヅキの経営を下支えしてきた電力機器／産業機器向けのコンデンサ。機能や性能を従来品よりもさらに高めていく「技術力の強化」と、QCD（品質・コスト・供給力）



※写真はイメージです

対応力を磨くことでバラつきなく早く、安くつくれるようにする「ものづくり力の強化」を併行して進め、これからも安定した収益を生み出し続ける「強い事業」にしていきます。

電力機器／産業機器においては、ASEANを中心とした電力インフラの整備に向けて、いかに競争力の高い商品を送り出していけるかが鍵となります。アジア開発銀行（ADB）は昨年、「アジア太平洋地域の開発途上国が現在の経済成長を維持するとすれば、2030年までのインフラ需要が22.6兆ドル、年間1.5兆ドルを超えるとの見通し」という報告を発表しています。シヅキの売上高に占める海外比率は20%まで上昇しており、今後数年で25%まで引き上げたいと考えております。

電力機器／産業機器をはじめとする強固な基盤のもとに、EV自動車の成長が上積みされていく。このような厚みを持った収益構造を築き、V字回復へ向けて全社一丸となって歩いていく所存です。株主の皆様には、これからも変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。





シツキから旅立ち、
社会を支える商品たち

vol.10

現地のニーズに応じて、グローバルな活躍！
海を越え、ステージを広げるコンデンサたち！

世界のコンデンサ

電気が使われるところに、コンデンサあり。シツキでは早くから世界を見据え、現地の環境やニーズに応えながら、積極的なチャレンジを重ねてきました。今や、コンデンサたちが活躍する舞台は、アジアやヨーロッパ、アメリカへと広がり、さらなる拡大へ向けて、邁進をつづけています。

イギリス

電鉄車両【コンデンサ】

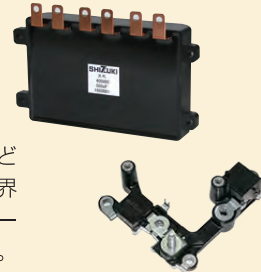
CO₂排出量が少ないクリーンな乗り物として、鉄道の整備が世界で進んでいます。コンデンサは車両の床下に搭載されています。電気の歪みを取り、滑らかで高速の走行を実現させます。



ドイツ

自動車【コンデンサ】

海外向けの自動車用コンデンサは、ほとんどが次世代エコカーに採用されています。世界各国で進む電気自動車などの次世代エコカーの普及を高品質のコンデンサで支えています。



インド

工場【瞬時電圧低下補償装置】

瞬時電圧低下補償装置は、系統事故で発生した一瞬の電圧低下による工場設備への影響を防ぎ、生産ラインの安定稼働を支え、高度なものづくりに貢献しています。



タイ

エアコン【コンデンサ】

エアコンの心臓部であるコンプレッサはモータで動き、その回転数が高いほど冷房・暖房が強くなります。コンデンサはモータの回転力を生み出し、エアコンの運転をサポートしています。



アメリカ

太陽光発電【コンデンサ】

発電量の多いメガソーラー向けにシツキのコンデンサは採用されています。大規模発電の施設は遠隔地に設置される場合が多く、長寿命で信頼性の高いフィルムコンデンサは、メンテナンスコストの削減でも大きく貢献しています。



農業機材【コンデンサ】

自動車だけでなく農業機械もハイブリッド化が進んでいます。コンデンサは動作用モータなどを制御するインバータに使われています。電気エネルギーの有効活用に貢献しています。




中国 ・ 韓国

ビル・工場など【コンデンサ】


シツキの力率改善機器は、ビルや工場などの受電設備で、電力の効率改善に役立っています。大型の施設ではたくさんの電気を使うため、電力使用効率を上げることは、省エネとコスト削減につながる重要な対策になります。






PROMOTION

コンデンサ研究開発棟を移転新設




EV市場の急成長が始まり、岡山指月では、電気自動車用コンデンサの生産が拡大しています。今後のさらなる増産を見据えて、生産に携わる者は生産に、開発に携わる者は開発に、より専念できる環境を整えるべく、岡山指月にあるR&Dセンターを移転し、兵庫県西宮市に「コンデンサ研究開発棟」を新設する運びとなりました。R&Dセンター移転後の社屋は、電気自動車用コンデンサの生産棟として活用します。欧米のEV市場への販路拡大へ向けて開発力・生産力ともに増強をはかり、シツキの次なる成長の牽引力としてまいります。




PRODUCT

瞬時電圧低下補償装置※ 新商品発売



シツキの瞬時電圧低下補償装置は、大容量から小容量タイプまで幅広くカバーし、国内随一のラインナップを誇ります。この度、低圧・小容量タイプの「SAG-Backupシリーズ」に、ラックマウントタイプの新しい商品が加わりました。これまでラインナップに無かった容量1.2kVAを可能にした業界トップクラスの小型商品です。圧倒的な省スペース・小型設計を実現しながらも、シツキならではの高性能・高機能を追求。分散・少額投資のニーズや、機器への組み込み需要に応えることで、新たな展開が期待できます。

※雷や風雪により起こる瞬時電圧低下(瞬低)。この現象が引き起こす機械の急停止や故障などのリスクから生産ラインを守るのが瞬時電圧低下補償装置です。



鉄道地上設備
き電保護パック

卒業生の手紙 6

安全運行を支える！
電流の異常を、
素早くキャッチ！

鉄道地上設備
き電保護パック

僕らは、ずっと鉄道を悩ませてきた「高抵抗地絡」を解決するために生まれしてきたよ！電気抵抗が強い場所でショートが起きても、変電所では「電車に電力を送っている状態」との区別がつかなかったんだ。僕らはそれをいち早く区別して、お知らせする係。小さくて軽いけれど、意外としっかりものなんです。みんなも喜んでくれて、「第37回オーム技術賞」では第一位に選ばれたよ！

秋田指月 創立50周年

～地域に雇用を。秋田から世界に誇れるものづくりを～

1968年、秋田県羽後町(うごまち)に誕生した秋田指月。この町に県外企業が拠点を構えるのは、初めてのことでした。当時、豪雪地帯である秋田県では、農閑期になると県外へ出稼ぎに出る人々が多く、「何とか地元で雇用を創出したい」と熱心に企業誘致に取り組まれていました。その熱い想いに感銘を受けた創業者の山本重雄は、秋田での工場開設を決意。それから半世紀にわたり、地域の雇用創出に寄与してきました。

秋田指月は、勤勉で粘り強い県民性に支えられながら成長を重ね、現在4つの工場と研究開発棟を稼働させています。およそ350名の従業員が活躍し、自動車インバータや産業インバータ、IH家電に向けた高性能なコンデンサを開発・製造しています。今後は、急成長が予測されるEV市場に向けて、さらなる生産拡大を進めていきます。秋田から、世界に向けたものづくりを。秋田指月はこれからも、地域の皆様とともに歩み続けてまいります。


秋田指月の50年

- 1968 〇 カラーテレビの普及が進む中、電子用フィルムコンデンサの製造を開始。
- 1970 〇 蒸着フィルムコンデンサTME・DMEが、通信機器や家電へ販路を拡大。
- 1975 〇 樹脂ケースタイプのコンデンサCMEを開発。現在、販売累計10億個に迫るヒット商品に。
- 1987 〇 高まる安全性へのニーズに応え、業界に先駆け、保安機構付きのコンデンサを開発。
- 2006 〇 インバータ時代の高度なものづくりへ向け、研究開発棟を建設。
- 2008 〇 HEV車の登場により、自動車に向けたコンデンサの生産が拡大。
- 2014 〇 インバータ用コンデンサのさらなる技術力向上のため第4工場を建設。

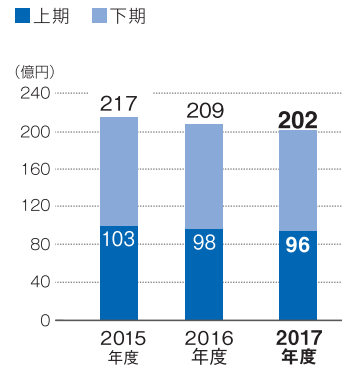
そして未来へ

急速な伸張が予測されるEV市場へ向け、アメリカ・ヨーロッパへ販路拡大を。

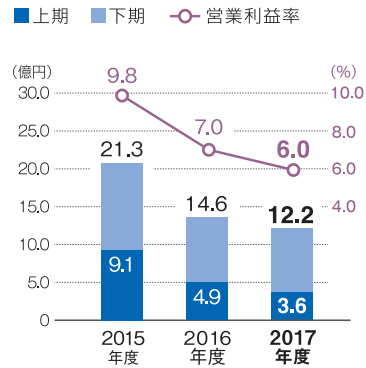




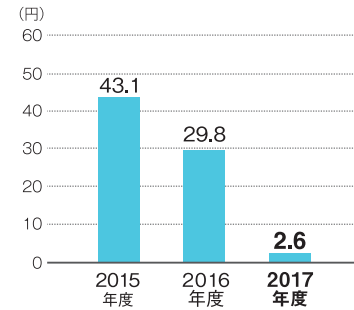
売上高



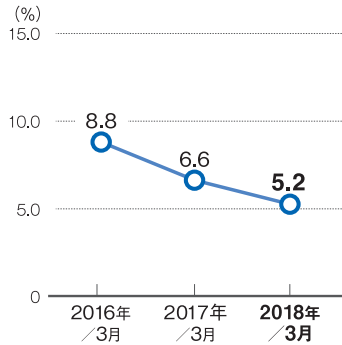
営業利益・営業利益率



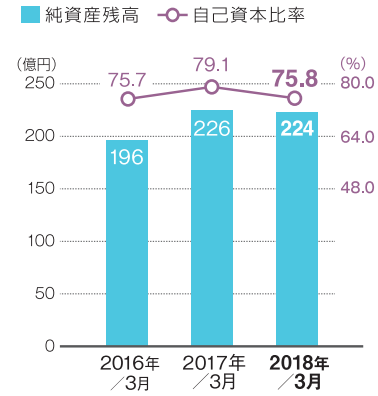
1株当たり利益(EPS)



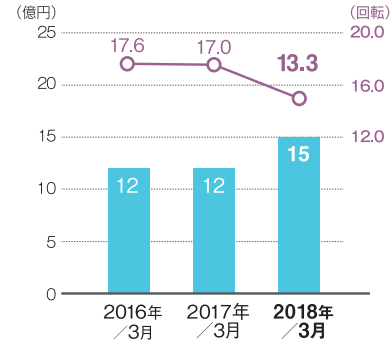
総資産経常利益率(ROA)



純資産残高・自己資本比率



棚卸資産残高・棚卸資産回転率



Point

業績面では売上減少の影響などにより、営業利益、経常利益は減益になるも、情報機器システムの事業譲渡に伴う譲渡益や支店移転に伴う売却益を特別利益に計上しました。一方で、特定顧客に納入した一部製品に関する不具合の回収費用を見積計上したことなどにより、親会社株主に帰属する当期純利益は減益となりました。財務面では自己資本比率は75.8%と高い比率を維持しております。

(注)十万円の位を切り捨てて表示しております。

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	第89期 期末 2017年3月31日現在	第90期 期末 2018年3月31日現在
資産の部		
流動資産	15,590	15,816
現金及び預金	6,901	6,594
受取手形売掛金及び電子記録債権	7,086	7,051
棚卸資産	1,228	1,519
その他資産	373	652
有形固定資産	10,858	11,253
無形固定資産	52	86
投資その他の資産	1,748	1,988
資産合計	28,249	29,145
負債の部		
流動負債	3,521	4,295
固定負債	2,118	2,467
負債合計	5,640	6,762
純資産の部		
株主資本	20,988	19,888
資本金	5,001	5,001
資本剰余金	4,276	4,276
利益剰余金	11,731	10,631
自己株式	△20	△20
その他の包括利益累計額	1,370	2,206
非支配株主持分	249	287
純資産合計	22,609	22,382
負債純資産合計	28,249	29,145

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	第89期 期末 2016年4月1日から 2017年3月31日まで	第90期 期末 2017年4月1日から 2018年3月31日まで
売上高	20,933	20,168
売上原価	15,099	14,487
売上総利益	5,833	5,680
販売費及び一般管理費	4,377	4,461
営業利益	1,456	1,219
営業外収益	458	471
営業外費用	147	185
経常利益	1,766	1,504
特別利益	74	414
特別損失	299	1,620
税金等調整前当期純利益	1,541	298
法人税、住民税及び事業税	442	212
法人税等調整額	126	△42
当期純利益	973	128
非支配株主に帰属する当期純利益	47	41
親会社株主に帰属する当期純利益	925	87

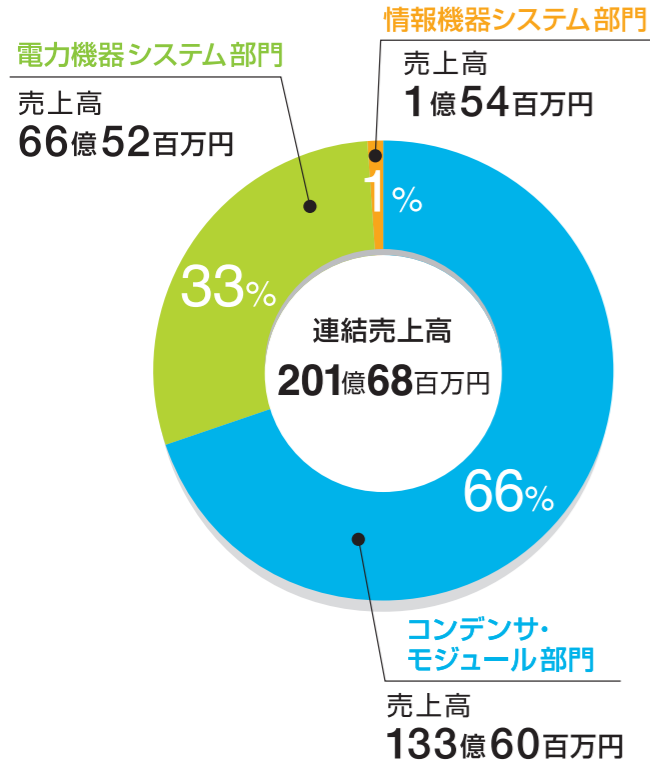
連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

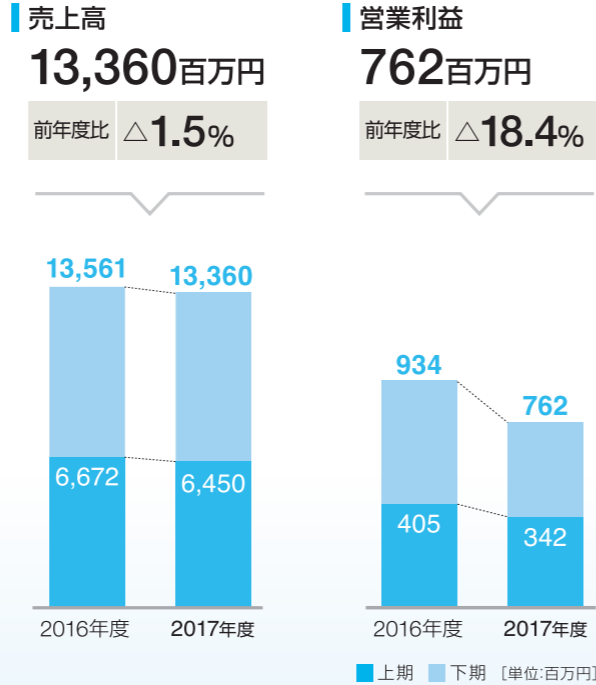
科目	第89期 期末 2016年4月1日から 2017年3月31日まで	第90期 期末 2017年4月1日から 2018年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	33	1,402
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,347	△1,415
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,859	△327
現金及び現金同等物に係る換算差額	4	33
現金及び現金同等物の増減額	522	△307
現金及び現金同等物の期首残高	6,378	6,901
現金及び現金同等物の期末残高	6,901	6,594

セグメント情報

■ 部門別売上高比率 (2018年3月)

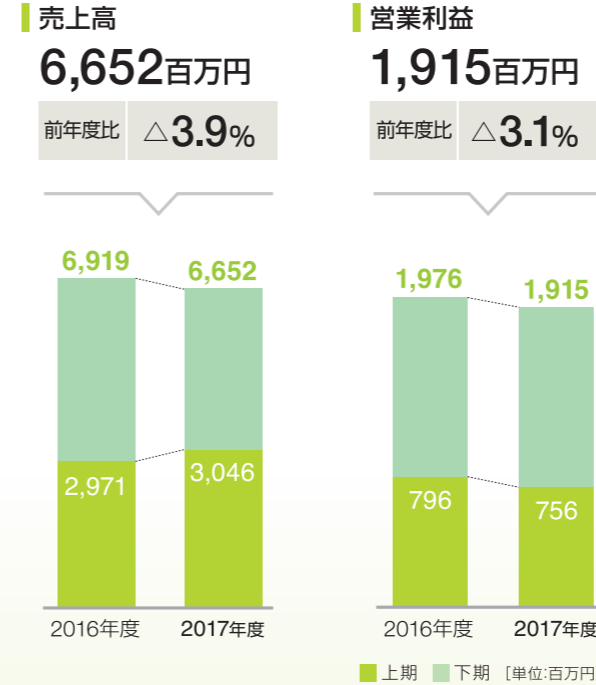


売上高構成比率 66% **コンデンサ・モジュール部門**



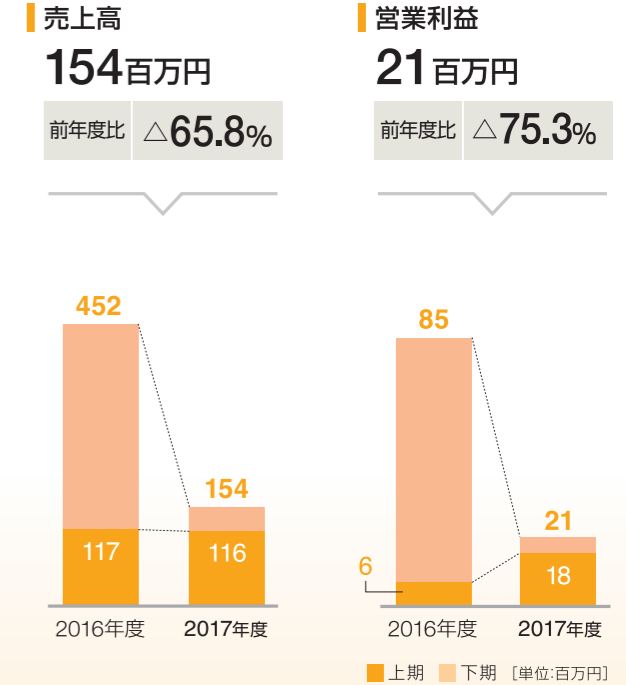
コンデンサ・モジュールでは、ハイブリッド自動車用コンデンサは好調に推移いたしましたが、新エネルギー関連の減少により、売上高は133億6千万円(前年度比1.5%減)となりました。

売上高構成比率 33% **電力機器システム部門**



電力機器システムにおいては、力率改善装置は堅調に推移いたしましたが、アクティブフィルタなどの電力品質改善装置が前年度比で減少いたしました。結果、売上高は66億5千2百万円(前年度比3.9%減)となりました。

売上高構成比率 1% **情報機器システム部門**



情報機器システムにおいては、当期中に事業譲渡した影響により、売上高は1億5千4百万円(前年度比65.8%減)となりました。

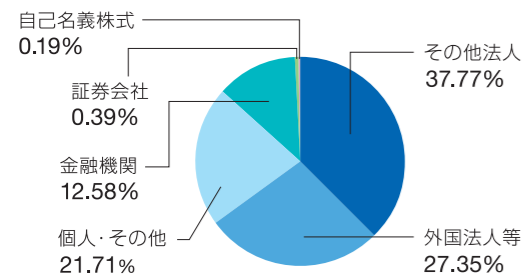
※セグメント別の営業利益については、調整額△1,480百万円があります。(セグメントに帰属しない一般管理費等の全社費用)

2018年 3月31日現在

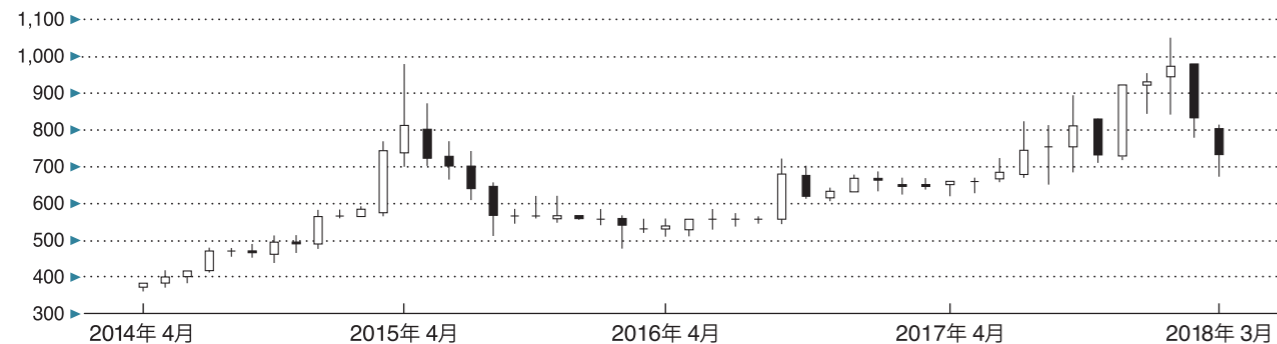
■ 株式の状況

発行可能株式総数	128,503,000株
発行済株式総数	33,061,003株
株主数	3,529名

■ 所有者別株式数分布状況



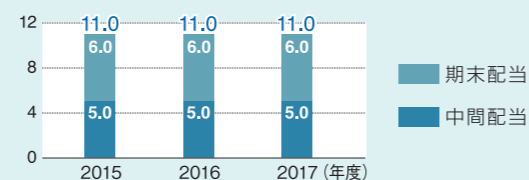
■ 株価の推移(円)



期末配当金 1株当たり **6円**

1. 期末配当金 1株当たり6円
2. 支払対象者 平成30年3月31日現在の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者
3. 支払開始日 平成30年6月8日

■ 1株当たりの配当実績 (単位:円)



■ 大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
三菱電機株式会社	6,980	21.11
株式会社村田製作所	4,471	13.52
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	4,267	12.90
NOMURA PB NOMINEES TK1 LIMITED	2,366	7.15
DEUTSCHE BANK AG LONDON GPF CLIENT OMNI-FULL TAX 613	1,584	4.79
株式会社りそな銀行	1,299	3.92
株式会社みなど銀行	925	2.79
指月協友持株会	854	2.58
指月電機製作所自社株投資会	470	1.42
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	434	1.31

2018年 3月31日現在

会社概要

商号 株式会社指月電機製作所
 英文名称 SHIZUKI ELECTRIC COMPANY INC.
 本店所在地 〒662-0867
 兵庫県西宮市大社町10番45号
 TEL:0798-74-5821

ホームページ <http://www.shizuki.co.jp/>

創業年月日 1939年 3月10日

設立年月日 1947年 9月 1日

資本金 5,001,745,595円

グループ人員数 1,326名

主要取扱業務 ■ コンデンサ及び関連機器・装置
 ■ 電力機器・装置 の製造販売

営業拠点 ● 東京支社
 ● 東京支店／関西支店／中部支店
 ● 仙台営業所／日立営業所
 広島営業所／福岡営業所

役員

取締役

取締役会会長 伊藤 薫*
 取締役 友松 哲也*
 取締役 山本 則彦
 取締役 鳥川 光春*
 取締役 森 公利*
 取締役 谷 和義*

*は執行役を兼任 ※は社外取締役

執行役

代表執行役社長 伊藤 薫
 専務執行役 足達 信章
 常務執行役 友松 哲也
 執行役 小田 敦
 執行役 藤原 健吾

生産子会社

社名	資本金	出資比率(%)
九州指月株式会社(福岡県)	300,000千円	100.0
秋田指月株式会社(秋田県)	300,000千円	100.0
岡山指月株式会社(岡山県)	300,000千円	100.0

関連会社

社名	資本金	出資比率(%)
株式会社 村田指月FCソリューションズ	100,000千円	35.0

生産・販売子会社

社名	資本金	出資比率(%)
アメリカンシヅキ株式会社 (米国 ネブラスカ州)	17,600千米ドル	100.0
タイ指月電機株式会社(タイバンコク)	33,000千バーツ	70.0
指月獅子起(上海)貿易有限公司	250千米ドル	100.0